

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

## 共育コラム

### 闘える心体（自分で考え判断し行動する）にチャレンジ

先日ある地域の教育懇談会で、地域や学校で子どもの学びにかかわっておられる方が、最近の子どもたちの学校生活や家庭生活のようすをみて、次のような心配の声をあげておられました。

今の子どもたちは、コロナ禍で、外遊び、友だちとスキンシップをとりながらの遊びの経験がなく、できなくなっているように思います。また、異常気象によって、雨だと当然外で遊ばせませんし、猛暑でも熱中症対策のために外遊びが制限されます。結局室内での遊びになりますが、タブレット使用が許可されていて、デジタル画像を相手に遊びます。子どもたちは、授業でもタブレットを使用し、休憩（遊び）時間も使用し、家に帰ってからも…。一日の生活の多くの時間、デジタル画面を相手に学習し、ネットのなかで遊びという、生活を送っています。こんな生活で、子どもたち大丈夫でしょうか。どうやってコミュニケーション力や対話力や、暑さ、寒さ、きつさ、しんどさへの耐性を養うのでしょうか。子どものためを思っていることでしょうか、それは本当に子どものためになっているのでしょうか。今、どんな子どもが育っているのでしょうか。本当に心配です。

私も同感です。日々さまざまところで、たくさんの子どものたちをみていて心配になります。せめて自分が直接かかわることができるなかでは「鍛える」環境をもちたいと思っています。

私が「鍛える」というのは、「自立」（自分から助けを求め、声をあげることを含めて）に向けた「自律」の力を育むことです。自分はどうなりたいのか、どうするのか、何を選択して（自己選択）、どういう決意（自己決定）で、どう行動していくのか、可能な限り自分の思いを表現しなければサポートも難しいことを伝えます。ここの意思確認がなかなか難しい場合もありますが、とても重要なことなので、時間をかけてでも明確にしていきます。自分だけでは意思形成ができない場合は、そこからサポートします。意思のなかには、「もっとうまくなりたい」「もっと強いチームにしたい」などありますが、「参加したいときに参加して、みんなと楽しく活動したい」のような気軽な活動もありです。今の自分が身をおいている環境（状況）や他者との関係のなかで自分のやりたいことをどのように実現していくか、ベターな方法を見つけたり、工夫したりして、行動していくことを求めます。

それらを確認したうえで、自分の思いを実現するための活動を自分で考えてつくっていきます。もちろん、自分だけではつukれない場合は、そこからサポートします。そうやって、自分のことば（決めたこと）に責任をもって行動することを求めます。

ただし、そうは言っても10歳前後の成長途上の子どもたちです。思うようにならなかつたり、決めた通りにできず失敗したりすることもあるでしょう。それは織り込み済みにおこななければなりません。うまくいかなかったらタイミングをみていったん立ち止まり、ふりかえって今一度反省すべきところを明らかにします。そこであらためて課題を設定し直して、また次のチャレンジをします。このサイ

クルを繰り返しながら成長を促していきます。